

鉛フリーリフロー半田付けに対応した 超小型パッケージCOBPフォトリフレクタ NJL5901Rのサンプル出荷と生産開始

「業界初！」の260℃で 2回のリフロー半田付けが可能なフォトリフレクタ

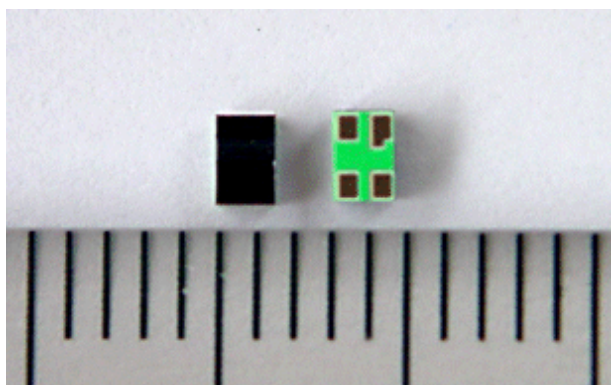
新日本無線株式会社(本社:東京都中央区 久米 一弘代表取締役社長)では、鉛フリーリフロー半田付け温度に対応可能な小型パッケージのCOBP(チップ・オン・ボード・パッケージ)フォトリフレクタ「NJL5901R」のサンプル配布と販売を開始しました。

NJL5901Rは、発光素子と受光素子を内蔵した反射型フォトリフレクタであり、COBPを採用することで小型・薄型(最小・最薄)を実現しています。光ディスク駆動装置のモータ回転検出や光ピックアップの内周検出、カメラのフィルム検出用途などに最適です。

近年の製品に対する鉛フリー化など環境負荷軽減の要求に伴い、リフロー半田付け時も鉛フリー化が必須項目に上がってきております。リフロー半田付け温度は、従来のピーク温度である240℃に対して鉛フリーのリフロー半田付け時には260℃のピーク温度が必要となります。

従来の反射型フォトリフレクタはこの温度に対応できませんでしたが、NJL5901Rは樹脂の組み合わせと新工法により鉛フリーリフロー半田付け温度260℃に対応し、さらに両面実装を考慮してこれまでなかったリフロー2回まで対応可能です。

(2003年 8月29日)



<製品の機能および特徴の概要>

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ・鉛フリーリフロー半田付けが可能 | リフロー半田付け温度260℃、2回 |
| ・小型リードレス表面実装パッケージ | 1.6 × 2.4 × 0.8mm |
| ・高出力電流 | 250μA typ. |

<生産予定/サンプル価格>

NJL5901Rは8月より生産を開始し、月産30万個を予定しております。なお、サンプル価格は@¥50です。